12月10日 世界人権デー

法輪功学習者による証言集会

式次第

13:30 開場

14:00 イベント開始

Part1 NPO 代表によるご挨拶

Part2 法輪功とは、なぜ迫害される?

Part3 証言者による発言

1.	張一文(ちょう・いちぶん)	日本語	迫害された人:母親
2.	A さん(匿名発表)	中国語	迫害された人:本人・家族
3.	周斌(しゅう・ひん)	中国語	迫害された人:本人
4.	劉月(りゅう・げつ)	日本語	迫害された人:妹夫婦
5.	孫俊夫婦(そん・しゅん)	中国語	迫害された人:本人・家族
6.	張樹莉(ちょう・じゅり)	中国語	迫害された人:本人・家族
7.	龔金均(きょう・きんきん)	日本語	迫害された人:母親
8.	張述慧(ちょう・じゅつけい)	日本語	迫害された人:叔母
9.	付麗(ふ・れい)	中国語	迫害された人:母親
10.	よう四萍(よう・しへい)	中国語	迫害された人:本人

Part4 実際臓器収奪に遭った法輪功学習者、程氏による発表

アメリカより、リモートにてご参加

Part5 質疑応答

16:00 イベント終了

＜証言内容＞

■【No.1　張一文（ちょう・いちぶん）】

皆さん、こんにちは。張一文と申します。2014 年に日本に留学し、現在は東京で勤務しています。私の母、王乖彦（おう・かいげん）は法輪功を修煉しているため、1999 年から現在までの 25 年間にわたり、何度も不当に逮捕され、投獄されてきました。そのため、9 歳以降、私が母と共に過ごした時間は 5 年にも満たず、友人には冗談交じりに「母はいるけれど、片親で育ったようなものだ」と話したことがあります。

母は以前、多くの病気を抱えており、1997 年には心臓病を発症して入院しましたが、症状は悪化する一方でした。1998 年、友人の勧めで法輪功に出会い、涙を流しながら『轉法輪』を読み、「本当に素晴らしい本だ」と感動していました。その後、法輪功の教え「真・善・忍」に従い、善良で規律正しい生活を送るようになると、不思議なことに全ての病気が完治し、産後の後遺症までも消えました。

しかし、1999 年 7 月 20 日に中国共産党が法輪功への弾圧を開始すると、母は違法に家宅捜索を受け、洗脳施設、留置場、労働教養所、刑務所などに収容されました。嫌がらせを避けるため、少なくとも 2 度、放浪生活を余儀なくされました。かつて優秀な医療専門学校の教師として表彰されていた母でしたが、弾圧の影響で授業を禁じられ、月 2 万円の給与に減額され、最終的には不当に解雇されました。

私の記憶では、7 歳頃から母は頻繁に違法に拘束されており、自由を奪われた日々は 10 年以上にも及びました。それでも、母がまだ生きていることを幸いに感じています。一緒に修煉していたこどもの中には、すでに 3～4 人の親が弾圧で命を落としています。

2001 年、母は私を連れて北京天安門広場で「法輪大法は素晴らしい」と書かれた横断幕を掲げました。その後、警察と母の職場の上司に連れ戻され、母は手錠をかけられたまま連行され、違法に 3 年間の労働教養を科されました。労働教養所内で、母が信仰を諦めないため、特に厳しい迫害を受ける対象となってしまいました。暴行を受け、顔には傷が残り、頭には無数の腫れができました。また、衣服には針で刺され血が滲んだ跡がよく見られました。

私が高校 2 年生で学校の寮に住んでいたとき、知り合いが訪ねてきて、「ご両親が連れて行かれたようです。一度家に帰って確認してみてください」と伝えてくれました。慌てて家に戻ると、家は荒らされ、冷蔵庫の中にはカビた食べ物が残っていました。明らかに家宅捜索を受けたことがわかりました。その後、夏休みが終わるまでの約 2 か月間、両親が逮捕されたという通知や文書は一切受け取ることはありませんでした。8 月末、父がようやく戻ってきましたが、足を引きずり、髪は白髪になっていました。母は最終的に 6 年の実刑判決を受け、2015 年に家に帰ってきました。刑期を終えて釈放されたとき、体重はわずか 40 キログラムにも満たない状態でした。私は 2014 年に日本に来て以来、一度も帰国しておらず、家族とはビデオ通話だけで連絡を取っています。

今年 4 月 11 日に母は友人の家にいた際に、警察に不当に連行されました。私は留置場などに

何度も電話をかけましたが、母と話すことは許されず、国内にいる親族も面会を拒否されています。

9 月 25 日、母の裁判が開かれましたが、証拠不十分で起訴内容が変更されました。10 月 29 日に再び審理が行われましたが、判決は未だに下されていません。

中国の憲法第 36 条は信仰の自由を保障していますが、法輪功学習者たちは、不当な拘束、嫌がらせ、拷問、さらには臓器摘出という残虐な扱いを受けています。この迫害は 25 年間続いています。どうか、母や他の法輪功学習者たちの救出にご支援をお願いいたします。

■【No.2　A 氏（匿名発表希望）】

皆さん、こんにちは。お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。 私は中国南部から 2024 年に来日した法輪功学習者です。今日は、私と私の家族が法輪功を修煉したために中国共産党から迫害された実体験をお話したいと思います。

1997 年、私の姉は幸運にも法輪功に出会いました。 彼女は以前、めまい、風邪、咳、ふくらはぎの痙攣、体の衰弱が頻繁に起こりました。 修煉後、姉はすぐに健康を取り戻し、元気いっぱいになりました。 姉の変化を見て、母と祖母も次々と修行に入りました。 母は老齢の病人で、しばしば頭の激しいめまいに悩まされていました。いつも嘔吐し、転倒により背中は曇りや雨の日になると痛み、めまいがして、漢方医と西洋医の両方に診てもらっても治りませんでした。 法輪功をやり始めて1年後、母は上記の病気はすべて完治した。 当時 70 歳を過ぎた祖母も、法輪功を修煉することで、歪みでできた猫背がまっすぐになりました。家族に起こった奇跡を目の当たりにした後、家族も友人も皆、自然に法輪功の修煉に入った。一家は法輪功の真、善、忍の理念を守り、家族全員が和気藹々と幸せであった。

しかし、1999 年 7 月 20 日、江沢民が率いる中国共産党が、心優しい法輪功学習者を非法に迫害し始めてから、私たち家族は 25 年間、残酷な迫害を受けてきました。

地元の 610 オフィス（法輪功を取り締まりためにできた共産党の下部組織）と警察は、私たち家族に絶えず嫌がらせ、脅迫をし、私たちに家宅捜索し、身分証明書を提示せずに私たちを逮捕しました。

2011 年、姉は妹が路上で法輪功の真相を話したという理由で、強制連行されました。 警察署で、妹は自白を強要され、悪徳警察に殴られました。その後、姉は 2 年間の強制労働、14 歳の未成年の妹も 1 年間の強制労働を言い渡されました。

2015 年、姉はまた私服警官に連行され、2016 年、地元の裁判所は法的根拠のないまま違法に禁固 3 年の判決を下しました。勾留中、刑務官は薬物犯罪者や他の受刑者に交代で彼女を袋に入れるよう指示し、1 日 2 時間しか睡眠を与えず、残りの数時間は一定の姿勢で立つことを強要しました。従わなければ冷水を浴びせるなど、長いときは 20 日以上にも及びました。 シャワー

を浴びることも許されず、暗い小部屋に長時間一人で監禁されました。 釈放時、彼女はひどく痩せていました。

姉が 2 回の強制労働と 2 回の懲役刑の間とも健康診断を受け、採血させられました。中国共産党は法輪功学習者を人間として扱わず、姉をあらゆる拷問や精神的な潰しにかけているにもかかわらず、彼女の健康を気遣うことに理解できませんでした。海外に来て、法輪功学習者が臓器狩りされることを知ったとき、私たちは心が震えました。

2023 年、数十人の私服警官が突然周囲の道路を封鎖して家宅捜索に入り、家にいた私と妹たちを強制逮捕し、法輪功の本や資料を押収しました。私たち三人は地元の警察署に不法に拘留され、一昼夜取り調べられ、釈放されました。その後も警察は何度も私たちに電話をかけ、嫌がらせをしました。

迫害から逃れるため、姉と私は家を出ることを余儀なくされました。友人の助けを借りて日本に逃れました。 母も中国の自宅に戻ることができません。中国国内の通信ネットが全部盗聴されるため、家族の安全のためにも連絡できません。警察が私たちを見つけられないと、法輪功を修煉していない家族に、私たちはどこに行ったのか、誰と連絡を取っているのか、連絡先はどうなっているのかと、よく嫌がらせをされました。

日本に来ることができ、また自由に法輪功を修煉ができることを心から感謝している一方、中国にはまだ法輪功を修煉している家族、仲間がいます。彼らがまたいつか逮捕され、拘留され、さらには臓器を強制摘出されるかもしれません。私は安全な国に来ましたが、心はまだ不安です。中国共産党（中共）による法輪功への迫害を止めるよう呼びかけます。

■【No.3　周斌（しゅう・ひん）】

皆さん、こんにちは。周斌と申します。上海出身で、今年で 57 歳です。私は、1995 年 3 月に法輪大法の修煉を始めました。修煉によって心身ともに恩恵を受けた私は、法輪大法が人の道徳を高め、国にも人にも有益な功法だと実感しています。

法輪大法を学ぶ前、私は証券取引所で国債先物取引をしていました。国債先物取引は、相場が動くと数十万、数百万、時には数千万の取引が行われ、非常に刺激的でした。 両親は健康のために毎日公園に行っていましたが、ある日、中国法輪功（改訂版）の本を持ち帰りました。当時、国債先物の相場があまり動かず、家で暇を持て余していた私は、その本を手に取って読んでみました。この本の教えは、そんな私の多くの疑問を解き明かしてくれました。

これがきっかけで、私は利益と快楽への執着を捨てることができ、修煉の門をくぐり、真・善・忍の原則に従って心を修め、善に向かうことを決意することができました。修煉は、私の心身に大きな変化をもたらしました。

1999 年 7 月、中国共産党は法輪功を迫害し始めました。法輪功に対する様々な誹謗中傷の報

道を行い、法輪功学習者を不法逮捕し、迫害し始めたのです。この迫害に直面し、中共の嘘に洗脳された民衆に、法輪大法の真実と中共による法輪大法学習者への迫害の実態を、勇気をもって伝えようと決意しました。学習者たちと共に大量の法輪功の真相資料や横断幕を作成し、気球に乗せて空中から散布する方法で北京に配布しました。しかし、中共の司法部門は、これを口実に、全くでたらめな罪名で私に 12 年の懲役刑を言い渡したのです。私はただ、良い人になる方法を学び、迫害の真実を伝えただけです。

中共の拘置所や刑務所では、警察が私に様々な拷問を行い、また看守に命じて私を殴打させたりもしました。長時間の手錠拘束、電撃警棒による殴打などもありました。

座面が不安定で柵が付けられたプラスチックの丸いものの上に連続９日間座らされたこともあります。一切の身動きも、目を閉じることも許されず、それができないと足を上げる罰が科されました。最初は３人の看守が見張っていましたが、後に２人追加されました。耐えきれず目を閉じてしまうと、塩水に浸した針で刺されたり、棒で胸を突かれたり、目に唐辛子入りの油を塗られたり、尖った棒で足の指を刺されるなどされました。その間、食事は一食につき一口か二口だけでした。「今回は本当におまえを殺すと、隊長は言った。ここからは生きて出られない」と看守に言われました。

2005 年 2 月頃、主管隊長の戴文龍は、私に対しては何をしても合法だと、刑務所内で言いました。もともとは健康だった体ですが、12 年間の迫害の中で、殴打により腰の骨が折れ、左右の肋骨も折れ、左の睾丸は破裂し、歯は折れ、右手親指の腱は断裂してしまいました。平手打ちされて半年間、耳から膿が出続けたこともあります。その間、血液の強制的な採取も何度かされています。再収監されたときは、警官に押し倒されて鎖骨が折れ、骨がずれたままくっ付いてしまいました。

12 年間の迫害の中、信仰を放棄せず修煉を続けたことで、少なくとも 100 回は殴打されています。

刑務所では、法輪功学習者は 3.3 平方メートルの監房に長時間閉じ込められます。食事や排泄も、その中でしなくてはなりません。通常の囚人のように、監房の外に出る機会はありません。

刑務所では、囚人の食費を削減し、代わりに看守の食事事情を改善することが行われていました。半年ほど、消毒液で化学処理された古い米が囚人の食事に出されたこともありました。また、飲料水も消防用水や生活用水が使用されていました。

時間が経っているので、多くのことを思い出せなくなっています。私自身も、思い出したいものではありません。中共によるさまざまな拷問を自分自身で経験して、中共という政党の邪悪さと厚顔無恥ぶりを、はっきりと認識することができました。幼少期から邪悪な嘘により洗脳され、偉大で栄光に満ちあふれ常に正しいとされてきた中共が、実際には事実を話さず、デマで民衆を欺き、暴力による支配を維持する邪悪な無法者だったのだと、今なら分かります。

12 年間の迫害後も、中共は私の家に来ては嫌がらせや脅迫をし続けています。私服警官に尾

行され写真を撮られたことも、地元の警官が脅しに来たこともあります。3 歳の娘は幼稚園に受け入れてもらえず、上級部門に訴えても効果はありませんでした。

最後に、中共の魔の手から逃れ、人権が尊重され自由のある日本に来られたことに、非常に感謝しています。中共による人権侵害と 25 年に及ぶ法輪功への迫害に対して、国際社会がより一層注目することを願っています。

より多くの善意と正義のある方々が声を上げられ、この迫害の制止をご支援くださることを願っています。

■【No.4　劉月（りゅう・げつ）】

こんにちは。私は横浜市在住の劉です。中国出身者で、今美容院を経営しております。

私及び妹夫婦が、中国でかつて非常にポピュラーになっていた健康法の法輪功の愛好者です。法輪功は 1992 年に中国で伝えだされており、道徳的を向上させ、病気治療と健康保持の効果が評価されていました。宣伝が統制されるなか、口コミだけで最多時1億人の愛好者がいました。

ところで、中国共産党政府が独裁政権のため、法輪功の存在を許さなく、1999 年に中国全土で迫害を開始しました。ただ健康になりたいとの目的だけなのに、多くの法輪功学習者が収監され、拷問を受けました。それが今でもなお続いています。

今、中国にいる私の妹夫婦も弾圧されております。義理の弟が刑務所に入れられており、妹もほかの人に弁護資料を作成したことで逮捕されています。法輪功学習者が逮捕される場合、刑務所で重労働をさせられるだけではなく、おびただしい人数が臓器収奪の対象にされることも暴露されております。私は彼らの状況に非常に危惧しております。

中国共産党政府は自国民に対して残酷な迫害を行う一方、国際世論にメンツを保ちたい一面もあります。今日、世界人権デーを迎えるにあたり、皆さんに訴えかけたいと思います。中国では現在も、時々刻々、残酷な迫害が絶えず発生しています。生体からの臓器摘出や拷問といった極めて非人道的な行為には中国人だけの災難ではなく、世界的に災難だと思います。私は、世界中の人々が中国共産党の実態を認識し、その嘘や宣伝に惑わされることなく、真実に目を向けることを望んでいます。そして、こうした迫害に苦しむ法轮功学習者たちという善良の人々を守り、支援の手を差し伸べるよう、心から呼びかけます。ありがとうございます。よろしくお願いします。

■【No.5　孫俊（そん・しゅん）夫婦】

私の名前は孫俊です。1963 年生まれです。妻の張霞は 1967 年生まれです。

私たちが日本に来たのは今年(2024 年)の 2 月で、中国の刑務所から釈放されたのは昨年(2023 年)のことです。 私は中国共産党から禁錮 7 年 2 カ月の判決を受けました。 妻の張霞は 7 年 5 カ月の判決を受けました。 いずれも違法な判決で、その主な理由は、江沢民による法輪功への弾圧・迫害を告発したことでした。

私は修煉を始める前は、体に様々な病気を患い、遼寧大学に在学中、病気のため 1 年休学しました。卒業してから病気予防のために色々な気功をしましたが、全然効き目がありませんでした。

1996 年に法輪大法を修煉し始めてから、私の病気はすべてなくなり、健康を取り戻しました。
1999 年 7 月になると、中国共産党政権は法輪大法に対する必死の弾圧と迫害を始めました。

2016 年 3 月 17 日、私が江沢民は法輪功を弾圧・迫害しているとして「集団殺害犯罪」と「人道に対する犯罪」、「拷問罪」等の罪で江沢民を告発したため、拉致され大連市拘置所に収容されました。

2017 年 6 月、大連甘地裁は私に 7 年 2 ヶ月の冤罪判決を下しました。

2017 年 11 月、私は瀋陽第 1 刑務所に送られ、高戒備十九監区で拷問を受け、殴られました。呼吸ができないようにビニール袋を頭からかぶせられ、靴の裏で頭や顔を殴られました。

私はこの刑務所で何度も「狭い独房に閉じ込められる」という拷問を受け、たびたび殴られ、拷問を受けました。 彼らの迫害に抗議するため、私は何度もハンガーストライキやウォーターストライキを行い、肉体的にも精神的にも深刻なダメージを受けました。

妻の張霞は中山区の青雲小学校の教師です。彼女は深刻な健康問題を抱え、仕事を辞めて家に帰ろうとしました。この時、彼女は法輪大法の修煉に入り、体調が急速に改善し、仕事を十分にこなせるだけでなく、「真実、慈悲、忍耐」(真・善・忍)の原則で自分自身を律し、校長や同僚から高く評価されました。

しかし、1999 年 7 月 20 日以降、中国共産党は法輪功に対する違法な弾圧と残酷な迫害を開始しました。教育部門は中国共産党の法輪功迫害の、最も甚大な被害を受けています。

2001 年 11 月、張霞は法輪功の修煉を堅持し、転向を拒否したため、大連市公安局によって 2 年間の拘禁を受けました。

2010 年 5 月 18 日午後、張霞は撫順の洗脳教室に強制連行され、1 ヶ月間迫害されました。

2016 年 3 月 15 日, 張霞が江沢民は法輪功を弾圧・迫害しているとして「集団殺害犯罪」と「人道に対する罪」等で江沢民を告発したため、勤務時間中に大連国家保安警察に拉致されました。その晩、大連の拘置所に入れられ、彼女がハンガーストライキをしている間、拘置所は彼女の歯をほとんど抜きました。彼女は毒を飲まされ、それ以来錯乱状態に陥り、重度の記憶喪失、極度の

恐怖、歩行困難に苦しんでいます。 彼女の体調は、刑務所にいた 7 年以上前からこのような状態です。 出所後、ずっと私が世話をしています。にもかかわらず、中国共産党政府は彼女の年金や医療保険などのすべての給付を停止しました。

私たちが出所してからも、大連では地元の警察が頻繁に私たちの家を訪ねてきて、嫌がらせや脅迫をしてきました。私は仕方なく、身体に深刻な健康問題を抱えた妻の張霞を連れて、2024 年 2 月に転々と逃亡を繰り返して日本に辿り着き、しばらく落ち着いていました。

私たちの意図していることは、ただひとつ、中国共産党が邪悪な政権であることを示したいのです。 中国人民を残虐に扱うだけでなく、近隣諸国にも危害を加え、全世界に脅威をもたらしています。このことは世界中の人々に周知の事実です。 私たちはただ、中国共産党が邪悪な悪魔であり、それを認識し、遠ざけなければならないことを世界に伝えたいのです。

■【No.6　張樹莉（ちょう・じゅり）】

私の名前は張淑麗です。 私は中国山東省濰坊市出身で、1996 年 6 月に三番目の姉から法輪功のことを聞きました。 姉から法輪功を学んだ後、私は姉がとても元気になり、頭痛がなくなり、健康になり、家族が調和しているのを見ました。 私は、この功法は素晴らしいと感じました。 それで私も法輪功を学び始めました。

私は美容師ですが、法輪功を修煉する前は、毎日首が回らないほど疲れ、夜起きると手が握れず、足が痛く、膝下が青く、足の裏には分厚いタコができていましたが、長い間法輪功を修煉していなかったので、法輪功の恩恵がとても大きいと感じました。

法輪功は、真実、慈悲、忍耐の原則に基づいて、人に善良な人間になることを教えるので、私は心が大きく改善され、人のために考えることを学びました。 その後、私はよく地元で自主的に指導に参加しました。

江沢民は、法輪功を学ぶ人が多すぎて、共産党員の数より多いことに嫉妬し、法輪功を迫害するためにいろいろな理由を作り始めました。

私と三番目の姉はブラックリストに載り、鎮の役人に監視され、1999 年 720 日までに法輪功を修煉しない誓約書を書くように言われ、何度も嫌がらせを受けました。 私は、法輪功は正しい方法であり、人に善を教えることは悪いことではない、誓約書も書かないと言いましたが、それでも毎日嫌がらせを受けました。

7 月 20 日の朝 8 時ごろ、城関鎮と村の 5、6 人が私の理髪店にやってきて、私の家具や備品を無理やり道路に投げ捨て、私の借家に鍵をかけた。 仕方なく、別の村に理髪店を借りた。

しかし、そこも安全ではなく、私には泊まるところがなかった。 その後、騙されて郷里に行き、そこで法輪功を中傷するビデオを見せられ、暴力的に洗脳され、夜には殴られました。

私は 4 回拘留され、そのたびにお金を要求されました。 一度目は 2,000 元（日本円で約4万円）、二度目は 5,000 元、三度目は 12,000 元を要求されました。 3 度目は 12,000 元を要求された。 もしお金を用意できなければ、彼らは私を殴り殺すだろう。 夜 10 時過ぎに暗い小部屋に監禁され、髪を掴まれ、地面に押し付けられ、タオルで口をふさがれ、同時に任脈のツボを押され、背中に重い重りを背負わされ息ができなかった。

竹刀や手刀が私の足や腰、背中に降り注ぎ、二人の殴打者は大汗をかきながら竹刀を何本も折り、殴打に飽きると電気バットで私の頭を感電させ、激痛が走った。 私の額が電気バットで火花を散らしているとき、警官が「まだ修行しているのか」と聞いてきたので、私は「法輪大法はいい」と答えました！ 私は「法輪大法は良いものです」と答えました！

そして、2 階の会議室に連れて行かれ、ランプの明かりで見ると、私の足は黒く、両側が紫色で、石のように硬くなっていました。 尿は血の混じったピンク色だった。

翌朝、見ていない隙に 2 階の窓から飛び降りて逃げました。 それ以来、私は亡命生活を送っていました。

偶然、日本に住んでいた 4 番目の姉が私を日本に送ってくれた。 私の境遇に同情してくれた日本政府は、私に在留資格を与えてくれただけでなく、済南女子刑務所にいる三番目の姉の面会に人を派遣し、姉に対する迫害を緩和してくれました。 日本政府と日本国民に深く感謝します。しかし、妹は今も日本で拘束され、拷問を受け、恐喝され、何度か死に至るまで迫害されています。

私は日本政府に対し、私の家族と中国で迫害されている他の法輪功学習者に注意を払うよう呼びかけたいと思います。

■【No.7　龚金均（きょう・きんきん）】

みなさん、こんにちは。

私の名前はきょうきんきんと申します。2020 年に日本に来ました。現在は東京都内の物流会社で働いています。本日は、私の母・姚佳秀（ようかしゅう）の信仰と、私たち家族が過去 20 年以上にわたって経験してきた苦難についてお話ししたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

母は中国四川省の出身で、1995 年から法輪功の修煉を始めました。それ以前の母は非常に健康状態が悪く、多くの病気を抱え、どの治療法も効かず、生死（せいし）の境をさまよっていました。藁にもすがる思いで法輪功を試み、転法輪という本を学び始めました。「人としての在り方」についての教えに感銘（かんめい）を受け、母は一晩で本を読み終えました。翌日、驚くべきことに母の病気が奇跡的に治り、健康を取り戻しました。このような出来事は現代医学では説明が難しいものですが、法輪功修煉者の間では珍しいことではありません。

修煉を始めてから母の性格は明るく寛大になり、家族全体の雰囲気も和やかで幸せに満ちていました。当時、私たち家族は工場を経営しており、遠い親戚もよく手伝いに来てくれました。笑い声が絶えず、それは最も幸せな時期でした。母の変化を目の当たりにした家族全員も法輪功の修煉を始めました。

しかし、1999 年、中国共産党が法輪功への全面弾圧をし始め、私たちの生活は一変しました。母は 3 度にわたって陳情に行きましたが、そのたびに拘留されていました。さらには警察が家に押し入り、家宅捜索や脅迫が繰り返されました。2000 年には信仰を放棄しなかったことで、母は 3 年間の刑を宣告され、非人道的な扱いを受けました。例えば、母の腹部に両膝で圧力をかけ、鼻をつまんで窒息しそうな状態で、大量の塩分を含む糊状のようなものを無理やり飲ませました。母は耐え難い苦痛で意識を失いそうになりました。

2005 年に母が再び逮捕され、9 年の刑を宣告されました。この間、「精神疾患を患っている」という名目で強制的に精神病院に送られました。その後、成都女子刑務所に移送され、電撃や吊るしといった残虐な行為が繰り返されました。この過酷な環境の中で、母は生き延びるだけでも奇跡でした。

母が収監されている間、家族は経済的にも精神的にも崩壊しました。父は修煉をやめ、喫煙（きつえん）や飲酒に依存するようになりました。工場は経営不振に陥り、売却を余儀なくされました。私自身も鬱状態となり、人との交流を避けるようになりました。家庭の幸福は失われ、親戚や友人も次第に私たちから距離を置くようになりました。

2014 年に母が刑期を終え帰宅しましたが、監視と嫌がらせは続きました。その結果母は再び逃亡生活を余儀なくされました。2019 年には兄と私も逮捕され、母の居場所について尋問されました。この一連の出来事により、中国を離れることを決意しました。

しかし、母への迫害は今も続いています。今年 9 月、母は再び逮捕され、四川省西昌市拘置所に拘束されています。母が再び拘束された知らせを受けたとき、言葉にできないほどの悲しみを感じました。

母は信仰を放棄しなかったため、激しい弾圧の対象となりました。この 20 年以上にわたる迫害の中で、母は拷問や 12 年もの不当な禁錮刑を課され、何度も逃亡生活を余儀なくされました。このような迫害は決して個別の事例ではありません。母と同じように信仰を理由に弾圧されている法輪功学習者が無数にいます。多くの家庭が破壊され、さらには臓器狩りや命を落とすケースも報告されています。母の安全が非常に心配です。

どうか、この迫害に関心を持ち、母やその他の拘束されている法輪功学習者を助けていただけますよう、皆さまの温かいご協力を心よりお願い申し上げます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

■【No.8　張述慧（ちょう・じゅつけい）】

皆さん、こんにちは。私は張述慧と申します。中国の四川省成都市出身です。2015 年に日本に留学し、現在は会社員です。

本日、私の叔母が中国で受けた迫害の経験についてお話しします。

私の叔母、鐘芳瓊（しょう ほうけい）は今年 59 歳で、1986 年から運送業をいとなみ、数千万円の資産を持ち裕福になりましたが、長年病に悩まされていました。

叔母は先天性血管腫という、効果的な治療法がないとされる難病をわずらっており、1997 年には一過性脳虚血発作をわずらっていました。その後、叔母の友人が法輪功を紹介してくれました。法輪功を修煉してわずか 2 ヶ月で、叔母の病は完治しました。

叔母の身に起きた奇跡を目の当たりにしまして、親戚の多くも法輪功を修煉しています。

しかし、1999 年 7 月から法輪功に対する迫害が始まりました。叔母は何度も不当に家宅捜索され、洗脳班や強制労働所、刑務所に連れていかれました。30 回以上もこのような目に遭い、極めて残酷な迫害を受け、最長で 11 年の不当な実刑判決を受けました。また、仕事が奪われたため、家計は困窮し、2 年間従弟は学費も払えないほどでした。

私が最も印象に残っている迫害は、2002 年 12 月 9 日のことです。叔母は地元の公安に連れていかれ、ホテルの部屋に監禁されました。叔母は警察に 5 日間、眠ることが許されず、目を閉じると暴行され、冷水をかけられました。飲食も許されず、数日後朦朧とした叔母は 4 階から転落し、数時間意識を失い、その後下半身が麻痺状態となりました。

病院に治療不可能と判断され、叔母は担架で家に運ばれました。不幸が生んだ幸いとして、一旦警察に見放される叔母が法輪功をできるようになりました。奇跡がまた起こり、叔母は 2 ヶ月後には立てるようになり、3 ヶ月後には歩けるようになりました。

2007 年 8 月 3 日、叔母が再度成都市の留置所に連れていかれ、10 日間にわたり残酷な迫害を受けました。100 ワットの電球を叔母に押し当て、目、鼻、口にわさびや辣油を塗り、眠ることが許されず、拷問器具で叔母の腰部と大腿部を激しく刺しました。棒などで顔面を殴り、足で叔母の腹部を強く蹴り、叔母は血を流し、気失うまで殴られました。

2008 年 10 月 27 日、叔母は懲役 7 年の不当な判決を受け、女子刑務所に収監され、また拷問を受けました。

2018 年 6 月 6 日にまた、叔母は裁判所から不当に懲役 4 年、罰金 5000 元の判決を受け、成都市の女子刑務所に不当に収監され、迫害されました。

今年 6 月 27 日、成都市にある派出所に再び連れていかれ、現在に至るまで成都市拘置所で不当に拘禁されています。

実刑以外にも、地元当局による違法な家宅捜索を受け、家に監視カメラを設置され監視され続

け、また嫌がらせを受けました。

中国の家族も私は何度も拘置所に電話をかけましたが、相手は返答せず、面会も許可しませんでした。叔母の近況について情報がなく、みんなが心配しています。

中国の憲法では、基本的な人権が保障されるとありますが、中国共産党は自分たちが憲法を作りながらそれを犯しています。単に健康になりたい、よい人になりたいと思うだけなのに、法輪功学習者残酷な迫害を受けています。

中共は数多くの迫害の事例を隠ぺいしています。生体から臓器を収奪する残虐な行為も行っています。私の叔母や不当に拘束されている他の法輪功学習者を救出するため、支援を賜りたく思います。

■【No.9 付麗（ふ・れい）】

皆さん、こんにちは。FU と申します。2016 年に日本に来ました。建築設備の CAD オペレーターです。

私の母は 1997 年 2 月から法輪功を修煉し始めました。長年、坐骨神経痛に苦しんでいた母は、修煉を始めた後、痛みは消え、心身ともに穏やかになりました。

しかし、1999 年 7 月 20 日、中国共産党による法輪功への弾圧が始まった後、警察や住民委員会の役員が度々家に来て、修煉をやめるよう継続的に圧力をかけていました。

2001 年 1 月、母は北京へ陳情に行きました。それを知った警察は、夜 7 時から翌日午前 1 時までの間に、13 回も家に来て(押しかけて嫌がらせを行い)、母の服装について質問したり、母の写真を 1 枚持ちさったりしました。

その後、母は北京駅で捕まり、2 日後に連れ戻され、上海の強制労働所で 1 年間収容されました。母によれば、「懺悔書」を書かない限り、家族との面会は許されず、さらに毎日 14～15 時間の過酷な労働を強いられたそうです。耐え切れなくなった母は「懺悔書」を書きました。

その後、母は月に一度家族との面会が許可されるようになりましたが、修煉をやめ、法輪功を誹謗中傷するような文章を毎週提出するよう要求されました。

出所後も、中国共産党にとって敏感な日、（例えば 7 月 20 日や、全国人民代表大会や中国人民政治協商会議、あるいは他の国際会議を開催するとき、）母は警察や住民委員会の役員による露骨な監視下に置かれました。（買い物に行く時も、親戚を訪ねる時もその状況は変わりませんでした。）

2013 年、上海で多くの法輪功修煉者が逮捕されました。母は検察官と裁判官に手紙を書き中国では法輪功が合法だと伝えました。その手紙は郵便局で差し止められ、筆跡の照合によって母が特定されました。

2013 年 8 月 26 日の朝、多数の国安(国家安全局の警官)が家に押し入り、母は連行され、パソコンなどプリンターや法輪功関連の書籍や資料なども押収されました。私は母が逮捕されたことを明慧ネットに投稿したため、国保に会社から連行され、留置場で 1 ヶ月間拘留されました。

私は帰宅後、母のために地元の弁護士を依頼しましたが、国安の圧力により弁護士は事件から手を引くしかありませんでした。

そのため、私は新たに北京の弁護士 2 人に依頼しました。しかし、検察官が北京弁護士協会に弁護士を告発したため、そのうちの 1 人は年次審査の通過が遅れてしまい、母と会うことが叶いませんでした。

法廷で尋問するとき、弁護士が母に法輪功を修煉する理由と尋ねましたが、裁判官はその質問を遮り、「そのような質問ほ禁止です」と言いました。

弁護士が再び母に逮捕された経緯を聞きました。母が「当時、多くの人が家に押し入り、警察服も着ておらず、警察手帳も提示せずに私を連れ去りました」と話したところ、裁判官は再び母の発言を止めました。

検察官が提出した証拠である手紙について、母が読み上げを求めても拒否され、弁護士がその手紙を読み上げようとすると裁判官が法廷警備員に弁護士を退廷させるよう命じました。

最終的に、母は懲役 3 年の判決を受けました。出所後、母は刑務所での過酷な扱いを語りました。法輪功を放棄しない者にはトイレの使用が 1 日 5 分間に制限され、また、立ち続けることを強制されました。母はその影響でふくらはぎが膝と同じくらいの太さに腫れ上がりました。さらに、夜間も眠ることを許されず、血圧が異常に上昇したため、降圧剤を服用させられました。母によれば、その薬の影響で刑務所に入る前の記憶が断片的になり、唾液が垂れる症状も出ました。

母は日本にいる私に会おうとパスポートを申請しましたが、過去に母を逮捕した国安が「世界のどこに行っても法輪功を修煉しない」という誓約書を書かない限り発行を拒否すると伝えました。母はこれを拒否したため、現在もパスポートを持っていません。

■【No.10　姚四萍（よう・しへい）】

私は中国・北京出身の法輪功学習者で、北京積水潭病院で 23 年間働いている看護師の姚四平です。子供の頃に気管支拡張症を患い、症状としては、常に肺が感染しており、吐血することです。長年注射や漢方薬を服用していますが、治りませんでした。1998 年から法輪功を実践して以来、20 年以上薬も注射も服用していませんが、今は健康です。

◇弾圧開始

最初の不法拘留は 2001 年でした。中国共産党が 1999 年 7 月 20 日に法輪功を非合法化し、当時テレビや新聞は法輪功を批判する報道で溢れ、天安門広場での焼身自殺事件を捏造しまし

た。夫は私の知らないうちに私を病院と北京衛生局に通報しました。それで、私は洗脳のために北京法教育教室に送られました。 ここまで来ると物々しい軍事統制で誰と話すことも、自由な行動も許されず、寝ることも、食べることも、トイレに行くことも付添い人の監視の下で行われます。12 日間、不法に拘禁され転向させられました。

◇不法逮捕、拘禁、強制労働、公職追放

2005 年 3 月 1 日の朝、新街口区役所の 610 弁公室と警察部門から十数人が来て不法に家宅捜索されました。母親が法輪功の真実を語ったことを通報されたため、全国人民代表大会（全人代）と中国人民政治協商会議（政協）の両会の前夜、母を逮捕し、西城区洗脳教室（闇刑務所）に送られ、すでに 77 歳になっていた母は拘束された。

私は帰宅し、家がめちゃくちゃに散らかっており、何か問題が起きていることを察した私は、すぐに家を出て、ホームレス生活を送ることになりました。放浪生活を始めて 2 年になりました。

2007 年 3 月家の電話が盗聴され不法に拘留され、2 年間不法に拘禁されていました

2008 年 7 月のある夜、2 人の同修と私は突然手錠をかけられ、話すことを禁じられました。物々しい様子の警官が実弾を持って私たちを大型車まで連行しました。私たちは内モンゴル女子強制労働収容所に到着しました。北京オリンピックを開催するので、中国共産党は不安定と考えるあらゆる要因を排除しなければなりませんでした。彼らは、外国人ジャーナリストが中国共産党の人権迫害犯罪を暴露することを恐れていました。

調遣処は人を苦しめて、人格を侮辱する所です。北京女子労働教養所で強制的に洗脳させられました。

内モンゴル強制労働収容所に到着すると、午前 5 時に起床し、午後 12 時に連れ戻され、部屋に閉じ込められ、小さなベンチに座って動くことを許されず、法輪功を中傷するプロパガンダビデオを視聴することを強制されます、精神的な拷問を受け、長時間、過負荷で無防備な汚染労働を強いられ、腕や手に広範囲の皮膚潰瘍を患い、土日も残業を強いられました。強制労働収容所は囚人を金儲けの道具として扱っています。

強制労働収容所から戻った後、私は病院を解雇されました。 2009 年 3 月に労働収容所から戻った後も、610 弁公室と町内会は私への嫌がらせを続けました。中共の法制度を勉強させるために西城区に 1 週間行かされました。 2012 年 11 月、中国共産党第 18 回党大会前のいわゆる敏感な日、西城区 610 弁公室が私の家にやって来ました。

彼らは自宅で神韻の広告と『共産党に関する九つの評論』を発見し、西城区福綏境から警察に通報しました。警察は捜索令状も提示せずに家を荒らし、大量の大法の本や絵、学習教材、コンピュータ、プリンタ、レコーダー、ビデオ、電話、その他のアイテムを押収しました。

今回の 610 弁公室、警察、国安の不法侵入は 83 歳の老母の心身に大きな損害を与え、2013 年 7 月に母は永遠に私たちのもとを去りました。迫害は私たちの家族に破滅的な悲劇をもたらし

ました。

2014 年 2 月 27 日、28 日は、全国人民代表大会（全人代）と中国人民政治協商会議（政協）の両会が開催される敏感な日でした。警察は私の家を 2 日間監視し、28 日の夜 8 時に私の家の電源が強制的に止められ、さらに警察がやって来ました。私がどうしてもドアを開けないので、ドアを叩き壊してでも開けようとしました。外側の防犯ドアが開けられ、内側のドアは蹴破られました。部屋に入ってきた警察達は、私を床に押し倒し、1 人は床の上で私を手錠で押さえ、また地面から引っ張り起こしました。私はまた床に押し倒され、何人かの警察が私を4階から1階まで引きずるように連れて行き、パトカーに押し込んで連行しました。

車は西城区福綏境派出所まで連れて行かれ、奥の小部屋に入れられました。外からは完全に遮断されていて、何が起こっているのかわからない場所で、部屋には拷問用の椅子が置かれているだけでした。私は椅子に鎖でつながれ、手足に手錠をかけられ、裸足になっていました。その時は冬でした。翌日、私は血液を採取されました。午後 10 時頃、私は西城区拘置所に送られ、30 日間不法に収容されました。 家族には何の法的手続きもせず、場所も告げずに、私は再び拘置所からいわゆる西城区法教育基地に強制連行されました。この基地の実態は、高い塀と閉ざされた門で外界から隔離された黒い刑務所です。 ここに監禁された人は自由が制限され、24 時間尾行する者が派遣され、あなたの言動や行動がいつでも報告されます。 私はこの迫害に断固として抵抗し、30 時間も断食絶水し、610 弁公室は私を家に帰さざるを得なくなりました。

2015 年 4 月に日本に来て、中共という悪夢のもとでの生活に終止符を打ちました。日本政府のご協力に感謝いたします。私は、世界の政府と人々が、我々と共に、中共邪党の世界を欺き、人間性を殺し、人間の道徳を傷つけるこの迫害を阻止し、終わらせるよう呼びかけます。